

# ふるさと Something NEWS

第44回

## 故郷と居場所

### 環境が故郷をつくる

一般社団法人 洺楓座  
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事

佐藤 建吉

#### ▼居場所と故郷

筆者は、いま紅葉が進む軽井沢にいます。町役場の裏に位置する離山は、浅間山と同じく軽井沢のどこからでも見える丘のような山である。その離山の衣装も毎日少しずつ黄色みや赤色みを増している。自然も生き物だと思える。庭先のドウダンツツジはもうすっかり深紅に染まっている。

筆者の場合、第一の故郷は、山形県鶴岡市である。そこには、18歳まで暮らした幼年期からの郷愁がある。周囲が山の中で、自然しかないところ、自然に育った。就職のため、その後は学生として千葉県や東京都世田谷区に住んだがアパート住まい。思い出ではあるが、故郷とは言えない。研究滞在中、イギリスのテムズ河の上流の自然豊かな学寮に住み、再び自然の大切さに気付いた。そして思い切つて家族とともに千葉市から千葉県の房総半島、前も岬町という灯台のある町に引っ越した。灯台の回廊するチームが人生への指針を与えてくれるか考えたからだ。ここには、ログハウスの家があり、もう25年も暮らす。第二の故郷である。

筆者の場合、第一の故郷は、山形県鶴岡市である。そこには、18歳まで暮らした幼年期からの郷愁がある。周囲が山の中で、自然に育った。就職のため、その後は学生として千葉県や東京都世田谷区に住んだがアパート住まい。思い出ではあるが、故郷とは言えない。研究滞在中、イギリスのテムズ河の上流の自然豊かな学寮に住み、再び自然の大切さに気付いた。そして思い切つて家族とともに千葉市から千葉県の房総半島、前も岬町という灯台のある町に引っ越した。灯台の回廊するチームが人生への指針を与えてくれるか考えたからだ。ここには、ログハウスの家があり、もう25年も暮らす。第二の故郷である。

筆者の場合、第一の故郷は、山形県鶴岡市である。そこには、18歳まで暮らした幼年期からの郷愁がある。周囲が山の中で、自然に育った。就職のため、その後は学生として千葉県や東京都世田谷区に住んだがアパート住まい。思い出ではあるが、故郷とは言えない。研究滞在中、イギリスのテムズ河の上流の自然豊かな学寮に住み、再び自然の大切さに気付いた。そして思い切つて家族とともに千葉市から千葉県の房総半島、前も岬町という灯台のある町に引っ越した。灯台の回廊するチームが人生への指針を与えてくれるか考えたからだ。ここには、ログハウスの家があり、もう25年も暮らす。第二の故郷である。

筆者の場合、第一の故郷は、山形県鶴岡市である。そこには、18歳まで暮らした幼年期からの郷愁がある。周囲が山の中で、自然に育った。就職のため、その後は学生として千葉県や東京都世田谷区に住んだがアパート住まい。思い出ではあるが、故郷とは言えない。研究滞在中、イギリスのテムズ河の上流の自然豊かな学寮に住み、再び自然の大切さに気付いた。そして思い切つて家族とともに千葉市から千葉県の房総半島、前も岬町という灯台のある町に引っ越した。灯台の回廊するチームが人生への指針を与えてくれるか考えたからだ。ここには、ログハウスの家があり、もう25年も暮らす。第二の故郷である。

#### ▼三つの環境

時間の経過は、その地の特徴を身に着けさせる。それは「環境」である。環境が「私」をつくる。環境には三つある。一つは、「自然環境」であり、風土と呼ばれるもので、気候や地勢が関係する。二つめは、「人工環境」であり、住宅・交通・情報などの科学技術が作り出す。暮らしや生活のスタイルに大きな影響を及ぼす。三つめが、「文化環境」である。

#### ▼第三の故郷

軽井沢は、地方都市であるが、東京の影響を受け、浅間山に抱かれた自然環境がある。明治時代に、この地を訪ねたカナダ人宣教師のアレクサンダー・クロフト・ショーが、その環境に注目して別荘地開発が始まった。軽井沢には企業家や芸術家など時代を切り開く先進的な人々が滞在し、いわゆる文化を定着させてきた。

軽井沢は、地方都市であるが、東京の影響を受け、浅間山に抱かれた自然環境がある。明治時代に、この地を訪ねたカナダ人宣教師のアレクサンダー・クロフト・ショーが、その環境に注目して別荘地開発が始まった。軽井沢には企業家や芸術家など時代を切り開く先進的な人々が滞在し、いわゆる文化を定着させてきた。

本稿では一部には私情の話もあるが、具体例としてとらえていただければ幸いである。筆者も齢70年を数え、いろいろなことを経験し、いろいろなところを訪ねた。国内ばかりでなく、海外にも30カ国ほどに、足を踏み入れた。そのなかの居場所が、故郷ともなった。故郷といえば、宮沢賢治、前回のコラムで触れた室生犀星、そして立原道造も上げておこう。

#### ▼第一、第二、第三の故郷

大学を定年後、東京の新橋に事務所を持ち、通勤可能な千葉真松戸市

軽井沢高原文庫前の紅葉風景(左)と堀辰雄の軽井沢の山荘(右)



自然は、私たちの力では変えることができない。冒頭に述べた季節の

生まれる。近年では、MICEと  
いう会議やイベントへの  
取り組みも先進的に行わ  
れ、G7の国際政治会議  
も実施された。これらの  
経験は、インフラ整備と  
相まって、自然環境への  
憧憬、人工環境、文化環  
境の整備がなされている。  
こうして軽井沢町は自  
主財源が高く、財政力指  
数が1・49で、全国の市  
町村ランクで5位であ  
る。町では、「健康福祉  
(1939年)に没した  
立原道造は、詩人であり  
建築家であったが、24歳  
で夭折した。彼は、早熟  
であったが、5年の短い  
期間で軽井沢を「ふるさ  
と」と感じ取ったとい  
う。軽井沢には、過現未  
の地域資源を掘り起こし  
創り出す魅力もある。そ  
れは、居場所をより「故  
郷」とする環境でもある。

#### ▼地域資源が故郷とする

大正3年(1914